

令和 2 年 11 月 25 日

※令和 2 年 11 月 30 日追記

新型コロナウイルス感染症対策専門員会議

広島県の新型コロナウイルス感染症の状況にかかる評価と提言

【感染状況】

- 広島県内では、9 月下旬に発生した呉市を中心としたクラスターは収束したものの、新規感染者は継続して確認され、11 月以降再び増加傾向を示し、直近 1 週間の感染者数は 62 人と、前週の 2 倍となっている。
- 感染経路不明割合は、直近 7 日移動平均は 61.3%と、県の警戒基準値である 50%を超えている。
- 直近 1 週間の人口 10 万人当たり新規感染者数は、2.21 人と県の警戒基準値である 4 人を下回っている。
- 11 月以降の感染者の年齢構成をみると、これまでの波と比較して 20 歳代の割合が最も高いが、最近では 40～60 歳代の壮年層が急増している。
- 発生状況の特徴として、10 月までの状況と異なり、現時点で大きなクラスターは発生していないが、小規模な個別感染が複数確認されており、広島市内を中心に感染が広がっている状況にあると考えられ、他の流行地域のように、急激に感染が拡大する可能性があることから、予断を許さない状況にある。

【医療提供体制】

- 「医療提供体制」については、現時点の病床（宿泊療養施設を含む）の使用率が 16.9%、重症者数が 0、人口 10 万人当たりの療養者数が 2.24 人と、いずれも警戒基準値（最大確保病床使用率：20%、うち重症者用使用率：20%、療養者数：6 人）を下回っているが、病床の使用率が上昇しつつあることから、患者数の増加に合わせて迅速に病床数を増やせるよう準備しておく必要がある。

※11 月 30 日時点

現時点の確保病床使用率：26.2%、うち重症者用使用率：16.0%

最大確保病床使用率：8.4%、うち重症者用使用率：12.1%

人口 10 万人当たりの療養者数：3.59 人

【ステージ区分】

- 感染者は漸増傾向にあり警戒基準値に近づいているものの、医療提供体制はすぐさま逼迫する状況にないことから、現時点では「ステージⅠ」の状況にある。
- しかしながら、他の流行地域の感染拡大状況を鑑みると、これまでの波と異なり、短期間で急激に増える可能性があり、クラスターが一つでも発生すればすぐに「ステージⅡ」に移行し、警戒基準値を超え、行動制限を余儀なくされる状況になることが想定される。

※11月30日追記

- その後、県内感染者数、病床使用率の増加、福山でのクラスター発生等により、「ステージⅠ」から「ステージⅡ」に移行した状況にある。

【対処方針（案）への提言】

- 現在の流行地域における感染状況は、これまでにないスピードで急激な拡大を見せており、県内も再び感染者数の増加傾向が見られることから、予断を許さず、十分な警戒を行っていく必要がある。
- 県は、改めて県民及び事業者への基本的な感染防止策の徹底と警戒強化の呼びかけ、3市を含めた県全体の感染状況の傾向分析を含め、わかりやすいメッセージの発信を行っていく必要がある。
- 特に、現在の感染拡大は、季節による気温、湿度の影響も大きいことから、これまでの対策に加え、湿度の保持とこまめな換気を徹底するよう呼び掛けていくことが重要である。併せて、同時流行を防ぐためにも、インフルエンザワクチン接種の勧奨を引き続き行っていく必要がある。
- また、急増している40～60歳代の壮年層は、無症状でも肺炎となっているケースが散見され、重症化すると病床を圧迫する懸念があることから、軽く考えず、早めの受診を促す必要がある。
- さらに、全国的にクラスター事例の増加が見られる医療機関、社会福祉施設への感染を早期に探知し、検査を徹底する等積極的な対策を講じることが必要である。